

2026年6月10日

学校法人三幸学園
大阪リゾート&スポーツ専門学校
校長 平松 敏機 殿

学校関係者評価委員会
関元 崇志委員長

学校関係者評価委員会実施報告

2025年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 関元 崇志 (株式会社 Globe 代表取締役/本校卒業生)
- ② 西鶴 和博 (ミズノスポーツサービス株式会社 事業開発推進部プロフェッサー)
- ③ 杉山 匡人 (株式会社 CODE7)
- ④ 篠原 康秀 (株式会社 FJG 人材支援本部人事部マネージャー)
- ⑤ 柳 宏和 (飛鳥未来高等学校大阪キャンパス 主任)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026年6月10日 (会場 大阪リゾート&スポーツ専門学校2号館 502教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025年度 学校法人 三幸学園 大阪リゾート&スポーツ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 永山 雄一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 関元 崇志

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・教育理念、目的、人材育成について

教育理念の生徒・保護者・講師への浸透

・学校運営について

初期教育の強化、通信制高校出身者へのアプローチ強化、退学者への早期対応等

・教育活動

資格検定取得の目的の明確化と試験対策

・学修成果

就職を含むキャリア支援の強化

・学生支援

特に卒業生支援の強化

・教育環境

実習先・ボランティアの確保

・学生の受け入れ募集

高校生の状況に応じたオープンキャンパスの対応(個別最適化)

・社会貢献、地域貢献

地域の方々に向けた学びの提供

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

生徒、保護者への周知は実施できているが、理解・浸透度は図れていない。

② 今後の改善方策

年度初めに各担任から保護者へ電話連絡を行い、教育理念の浸透を図っていく。

③ 特記事項

保護者連携アプリ「スクル」を活用し、学校から直接保護者へ発信している。電話がつながりにくい場合にチャットでやり取りができるようにしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

<杉山委員>

一部の大学では入学前の保護者会において、食事会の実施や各地域に出向いて実施しているところもある。全国へ出張して保護者会を実施することで参加率を確保することができるのではないかな。

(2) 学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

コンプライアンス違反やハラスメントがあった際の報告システムが可視化されていない。

② 今後の改善方策

2026年度より三幸学園全体でハラスメント防止委員会を設置し、ハラスメント防止推進体制が明確化される。さらに些細な事案が発生した場合でもハラスメント調査報告書を作成し上程する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<西鶴委員>

コンプライアンスに対するレベル感は厳しめに対応している。社内の体制も整っておりホットラインなどもあるが、タイムリーな情報の拾い上げが難しい。

コンプライアンスの意識が高まり対応が厳しくなる一方、指導がしづらくなっている側面もある。コミュニケーション不足が課題の根底にあるのでは。

<杉山委員>

事務局での体制は整っているが、現場で起きた事象については事実関係の把握が難しい面もある。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

上記、3の項目の共通点として、「外部」「業界」「関連分野における知識・技能(外部)」と本校の関わりが弱い。また、教職員の「自己研鑽」に対する取り組みについても課題がある。

例: 大学を卒業し、新入社員で教員となった教員等が業界水準や社会水準の教育ができる、また視座を持つための行動ができていないか。など

② 今後の改善方策

課題に対しての改善方法として、

- 業界理解: 施設訪問(業界企業への挨拶や訪問)の強化
- 教育内容の理解: 学校公認資格における教員枠のご相談(ご提供)
- 教育内容の理解: 授業見学へ行かせていただき専門的な内容の理解を深める。など。

・本件についても、仕事(業務の1つ)として参加しているメンバーがおり、取り組み方に課題がある。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

< 関元委員 >

新入社員に向けて研修をしていたが、スクール生の中から将来スタッフとして働きたい人向けのインターンシップ制度をつくっている。現代社会における多様性を尊重しつつ、若い段階から将来を見据えた取り組みである。業務内容ではなく、先輩職員が憧れの対象となることが重要。

< 西鶴委員 >

最近に興味なく入社する人ややる気がない人も多く、プログラムを提供することは必要だが、実際の現場を見せる機会を増やしている。

研修ではなく勉強会という位置づけに変化している。

< 杉山委員 >

研修から勉強会に変更することで、自分たちが課題を見つけて取り組めるようになればと考える。

< 篠原委員 >

技術系の研修は楽しそうに参加するが、マインド・ビジネスなど座学の研修は苦手な人が多いので構成を考えて集中力を切らさないように工夫している。

定量化しやすい業種のため色々な情報を公開していく。

1on1の面談が多く実施される。弱点補正よりも強みを伸ばすアプローチが有効である。

(4)学修成果（新井さん）

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率の目標数値に対して、最終目標数値を上回ってしまった
- ・主要資格の合格率は昨対や、姉妹校と比較した時にはまだまだ伸び代がある。

② 今後の改善方策

- ・退学率に影響を与える授業満足度の向上を図るため、定期的な授業見学や講師面談を設定する。
- ・資格合格率向上のための対策は今年度も継続して実施する。
- ▶退学率を低減させるため、早期発見(生徒の事前情報の集約・整理、担任を入れ替えての授業運営)
- ・早期対応(担任に加え、心理師とのカウンセリング)を実施し、初期対応に注力をしている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

<関元委員>

学生の進路選択が容易になった時代だからこそ、「続ける理由」をみつけてあげることが必要。
将来像が明確に見える仕組みを作る。リアルを伝えることで授業での学びの意味を知ることができる。

<西鶴委員>

個人面談を多く実施している。強制的な研修はしない。
得意不得意を見極めて、それぞれの強みに合わせた人員配置をしている。

<杉山委員>

退職理由として、「思っていたものと違った」「やり切って満足した」パターンに分かれるが、根本は人間関係が原因となっていることが多い。

<篠原委員>

早期退職者が増えたことが問題になり、与える研修から自身の強みを生かす研修内容に変更した。
個人面談を増やし自身の強みを考えさせる機会をつくったことで離職率は低下している。
採用基準の変化。①自分の機嫌は自分で取る(モチベーションが言い訳にならない・自分で気持ちのコントロールができる)②因数分解できるか(今起きている事象について分解して考えられる)③不確実なことに耐性があるか(予測不能なことが起きた時に適切な判断ができる)

<柳委員>

校内の巡回を増やして学生とコンタクトを多くとるようにしている。個人の性質に合わせてコミュニケーションを取る教員を代える等、カウンセリングを積極的に利用している。

飛鳥未来のメンバーは全員が心理サポート系の資格を取得している。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・地域のカウンセリングルームはあるが、利用者が少ない(利用がしにくい・ハードルが高い)
- ・卒業生への支援体制が整備されておらず、転職求人斡旋等ができていない。
- ・高校との職業教育連携ができていない。

② 今後の改善方策

- ・地域のカウンセリングルームの浸透をさせるために教室だけでなくロッカーやトイレへのチラシを掲示する。
- ・リゾスポキャリアラボの設置。
- ・卒業生向け公式 LINE を活用し、転職求人紹介等を行う。
- ・高校への職業教育連携を実施する。
- ・内部進学生の情報を高校と共有しサポートを行う。

③ 特記事項

- ・ハイパーQU を利用したクラス・個人状況の把握
- ・卒業生支援として、前年度の卒業生を対象に同窓会を開催。(2024 年度から今後、毎年開催予定)

④ 学校関係者評価委員会コメント

<杉山委員>

リカレント教育コンテンツなどで協力することができそう。

<篠原委員>

リゾスポキャリアラボに求人等を掲載したい。東京校では在校生とともにコラボして運営している。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

校舎設備の老朽化に伴う更新工事対応

② 今後の改善方策

- ・受電設備、空調など基本的な設備更新
- ・実技指導用器具の追加購入

③ 特記事項

- ・2号館 601 教室において個別ブースの4台設置
- ・1号館4A 教室をトレーニングルームへ改装

④ 学校関係者評価委員会コメント

<関元委員>

新しく機器を導入するためには、使いこなすための知識・コンテンツが必要。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・スポーツ&アクティビティ科(特にインストラクターコース)の希望者の減少
- ・テニスコースの入学者の伸び悩み
- ・留学生募集

② 今後の改善方策

- ・スポーツ&アクティビティ科の学科名をスポーツウェルネス科に変更
- ・スポーツウェルネス科(旧スポーツ&アクティビティ科)にバスケットボールコース新設
- ・テニスコースの募集停止
- ・日本語能力の高い留学生の募集促進の為に早期に留学生ガイダンスに参画

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

< 篠原委員 >

SNS での口コミの対応を慎重におこなっている。

採用においては、Instagram の効果が高い(コンバージョン率が高い)、一方で TikTok はエンタメより
のため成功例が少ない。

国際業務としての就労ビザ取得の実績があるので、国際業務展開と連携した採用の可能性あり。

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025年度は第3期中期経営計画(2023年度～2027年度)の3年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画<第2.0版>を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献(新井さん)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・地域への貢献活動が十分にできていない(コンテンツはあるが参加意欲が高まる案内が出来ていない)
- ・学びのアウトプットに繋がるボランティアが少ない

② 今後の改善方策

- ・大阪府ボランティアに参加するだけでなく、姉妹校合同の地域貢献活動を開催する
- ・ボランティアの質・量ともに向上を図る
- ・環境美化委員会活動

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

10年で学生の育てられ方・考え方が大きく変化しているため、対応側の変化も必要。

現代では選択肢が多く、「マス対応」では対応が難しい。

デジタル化が進んでいるが、オフラインでの関わり(特に個別面談)の重要性が増している。